

「産科医療補償制度」の課題

～大切な子どもたちの命と福祉を守るために～

日時：2009年6月6日(土) 午後 13:15 ~ 16:45

場所：新宿 エステック情報ビル 21階 B会議室

03-3342-3515 <http://www.stec-jbldg.co.jp/index.html>

JR新宿駅西口より都庁方面に徒歩5分、工学院大学ビル隣、新宿センタービル向かい。

JR新宿駅西口地下改札口より徒歩3分、左側の道を直進、柱番号E33出口(S3地上出口)。

今年1月1日に創設された「産科医療補償制度」。近々、初めてこの制度の対象となる子どもへの補償の手続きが始まるだろうとされています。しかし、そもそもこの制度は、分娩時に医療事故に遭った被害者や、重度の脳性まひの子どもを育てる親らの当事者の声をきっかけに始まったものではありません。厚生労働省や医師会等の主導で進められてきたために、患者側からは、この制度に対する様々な違和感や危惧の声が出されてきました。

この制度の補償の対象範囲や補償のされ方が、本当に、脳性まひの子どもや家族のためになるように設計されているのか。原因分析は中立公正になされ、健全に再発防止策や医療の質の向上につなげることができるのか。「産科医療補償制度」の概要について知ると共に、浮かび上がってきた様々な課題について整理し、それぞれの立場から意見交換をして、母子にとってのよりよいお産の実現や補償のあり方について皆で考えたいと思います。

< 第 部 それぞれの立場から見た産科医療補償制度(1) 有識者による講演(約75分) >

厚生労働省の立場から **堀 裕行**さん (厚生労働省医療安全推進室技官)
患者側弁護士の立場から **堀 康司**さん (医療事故情報センター嘱託)
臨床産科医の立場から **打出喜義**さん (金沢大学病院産婦人科医師)
臨床助産師の立場から **岡本喜代子**さん (日本助産師会副会長)
制度運営委員の立場から **岡井 崇**さん (日本産科婦人科学会常務理事)

< 第 部 それぞれの立場から見た産科医療補償制度(2) 当事者からの発言(約30分) >

産科の医療事故の被害者であり、実際に脳性麻痺の子どもを育てておられる母親の皆さんから、被害の体験やそこで感じた思い、更に、当事者としての日々の苦労の経験等をお話し頂き、産科医療補償制度・行政・医療界に対する要望や意見などを発言して頂きます。

< 第 部 質疑応答と意見交換、会場参加者全員でのパネルディスカッション(約75分) >

第部のシンポジストの皆さんの他に、「陣痛促進剤による被害を考える会」代表で、医療事故被害者を支援してきた**出元明美**さんをパネラーに加え、会場の参加者の皆さんと共に質疑応答や意見交換をしながら議論を深めていきます。(コーディネーター：**勝村久司**)

予約不要で、どなた様でもご自由にご参加頂けます。(会場定員195名)
受付：PM13時～、参加費：1000円(資料代込)、お問い合わせは下記まで。

主催：「陣痛促進剤による被害を考える会」
(URL) <http://homepage1.nifty.com/hkr/higai/> (tel) 090-7126-4141

共催：「患者の視点で医療安全を考える連絡協議会」